

生涯学習

No.577

かおり高い
文化のまち

発行 下諏訪町
教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
メール syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

生涯を下諏訪で過ごした大アーティスト

松澤 宥 生誕100年に寄せて

松澤宥生誕百年祭実行委員長

林 聡一

松澤宥(1922〜2006)

さんは、下諏訪町生まれの「観念／概念芸術の父」とも言われる20世紀の日本現代アーティストを代

表するひとりです。

今年の2月2日に生誕100年を迎えました。この期に昨年リニューアルされた長野県立美術館

で大きな回顧展

(2月2日〜3

月21日)が開催

されて大好評を

博し、同時期に

下諏訪の町なか

で私たちは「松

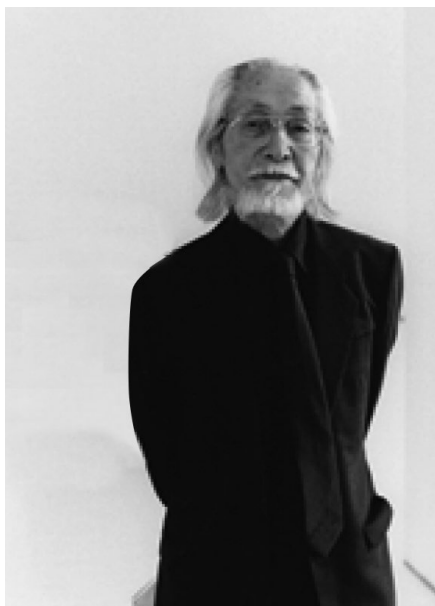
澤宥生誕100

年祭」を実施し

ましたが、お

げさまでこちら

観念／概念芸術の父 松澤 宥



も大きな反響をいただきました。

松澤さんは人生

のほとんどを下諏

訪町で過ごしながら、

アートの世界

に向けて発信し続

けました。イン

ターネット以前の

時代にも関わらず、

その活動とネットワ

ークは世界中

に広がり、海外の著名

アーティストフェ

スティバルに多数出展・

評価されました。

下諏訪の自宅のアトリ

エは「ψ(プサイ)の部屋」と呼

ば、国内外から多くの

アーティストが訪れる

伝説の場所でした。

後輩だった松本出身

のアーティスト草間彌

生さんもよく訪れて

いらっしゃったそう

です。

松澤さんは詩人とし

てアーティスト活

動をスタートし、

1950年代〜60年代

前半まで多くの

絵画やオブジェ作



諏訪湖博物館に展示された職

芸術家として名を馳せていたが、1964年42歳の時、真夜中に「オブジェを消せ」との声を聞き、それ以後文字だけを使ってアートを表現しようと決意したと言われています。現代美術史上有名な「観念芸術宣言」です。

今回100年祭では、「観念芸術」の代表作である「消滅の幟(のぼり)」や「ハガキ絵画」はもとより、長い間公開されていなかった「観念芸術」以前の多くの絵画を展示しました。「消滅の幟」は長さ20メートルに及ぶ大



概念芸術の代表作「消滅のぼりの幟」

の皆さん、また私たちと一緒に祭を創り上げてくださった街中の店舗や宿泊施設の皆さん、本当にありがとうございます。またの機会まで、*ギャテイ、ギャテイ。

*「ギャテイ(羯諦)」とは、般若心経の終わりに何度も繰り返される言葉で、「彼岸へ行こう」といった意味を持つそうです。

松澤さんの造詣が深かった仏教思想と合わせて考えると、「早くこの物質文明を捨てて、彼岸―悟りの世界に到達しよう」といった意味にも捉えられるかもしれません。

なピンク色の幟に「人類よ 消滅しよう 行こう 行こう (*ギャテイイギャテイ) 文明委員会」という言葉が書かれたもの。強烈なメッセージには現代文明を乗り越えていこうという思いが込められているとも言われ、展示した諏訪博物館のエントランスで多くの皆さんが幟の前でじっと考え、佇たえずんでいらっしやっただのが印象に残ります。

また絵画の多くはパステルなどで描かれた抽象画ですが、ご覧になった方からは「色が美しい」「不思議な形に惹ひきつけられる」などの感想が聞かれ、美術関係者の間でも大変価値が高いものであると評判でした。

アーティスト活動の一方で松澤さんは、現在の下諏訪中学校のそばにあった諏訪実業高校下諏訪分校の数学科教師として33年間務められ、多くの生徒に慕われた先生であり下諏訪の一町民でした。「100年祭」では松澤さんに接したことがある多くの方のお話を伺うことができましたが、皆さん異口同音に「とても穏やかな、優しい方だった」とおっしゃいます。

諏訪大社下社秋宮の氏子で御柱が大好きだったという松澤さんのアートは、諏訪信仰や密教思想の影響もあり、下諏訪にいたからこそできたものと言われます。

地元を愛し、この地で世界に通じるアートを創った松澤さんから、私たちは元気づけられ学べるのがたくさんあります。作品のみならず、多くのアーティスト仲間や友人たちとのやりとりから生まれた戦後日本の文化史を探る上で貴重な資料も数多く残されています。こうした松澤さんの作品や業績が日常的に見られる場所が町内にできることで国内外から多くの方が下諏訪に訪れるきっかけになることも考えられ、それを切に願っております。



不思議な形に惹ひきつけられる数々の抽象画

◎下諏訪総合文化センター6月の休館日は、7・14・21・28日です。

下諏訪中学校 創立40周年を迎えて

下諏訪中学校

創立40周年事業実行委員会

実行委員長 山岸 義康



下諏訪中学校創立40周年おめでとうございます。

昨年10月には絆祭の時間をお借りして、記念式典を挙行できましたことに、まずは深く感謝申し上げます。また、式典には、お忙しい中、宮坂町長、松崎教育長はじめ、地域・保護者の皆様、大勢の方にご列席いただき、誠にありがとうございました。

中学校は、40年前この高台に開校しました。私も開校間もない頃入学した一人であります。思い

出話になってしまいますが、中学校建設前には、この場所に遺跡が出たとニュースがあり、土器探しにきました。写生大会で、中の工事現場にも来ました。

入学した時には、まだ校歌もなく、体育館も一つ。毎朝「シルクロード」の音楽が流れる中、さんきゅう階段を何度も何度も上りました。あれから40年。社中がめでたく40歳になることができました。は、代々の生徒の皆さん、先生方、保護者の皆様、そして地域の皆様に支えていただいたおかげです。本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

昨年度は、一昨年度から続く新型コロナウイルスの影響で、40周年にやりたいこと、やらせてあげたいこと、実際にできることと、

どう折り合いをつけるかが難しい1年だったかと思えます。そのような状況の中、生徒の皆さんや、先生方が考え合って、生徒会や絆祭の活動を行ってきたと聞いています。これまで40年繋いできた長い道を未来へと繋いで行くことを目指して、昨年度の生徒会のスローガンは、「道」にしたとのこと。

さらに、絆祭のサブスローガンも「僕らで築こう果てしない道」に決めて、生徒皆さんの力で、40年目の道を強固に築くことができたのではないかと思います。特に大きな記念イベントや活動などを行うことはできなかったようですが、「日々の活動やその成果を、節目としてしっかりと胸に刻み込む」という思いには、大変感銘を受けました。

40周年記念事業としても、大きな活動はできませんでしたが、記念式典の他、望湖台の整備や記念誌の発行などを行いました。望湖台の整備では、視界を遮る樹木の伐採を行い、諏訪湖を一望する眺めが戻りましたが、これ程まで大きくなくなっていった木々の成長に、改

めて40年という年月の長さを実感した次第です。

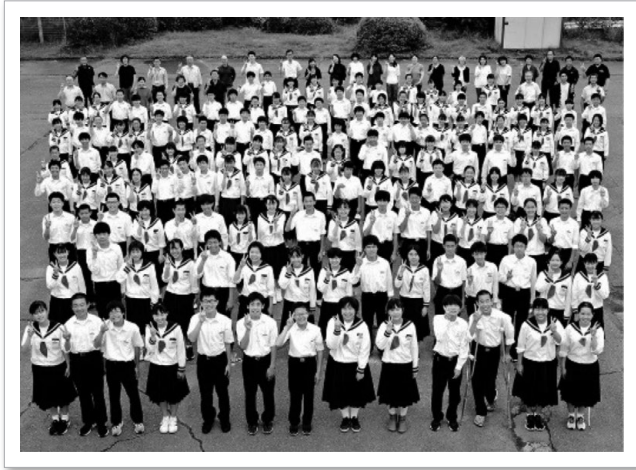
校歌にもある「絆は永遠に結ばれん」という良き校風と伝統を次世代に繋ぎ、さらに幸せな50周年、60周年を迎えられますことを心より祈念いたしております。そのためにも、地域の皆様には引き続き社中学校を見守りいただき、何卒宜しくお願い申し上げます。

40周年を迎えるに当たり、ご尽力いただきました皆様、本当にありがとうございました。



「コロナ禍でできないこともあるが、思い出に残る40周年記念事業にしたい」と語る山岸実行委員長

下諏訪社中学校創立40周年記念事業



記念写真撮影 (令和3年7月7日)



記念式典 (令和3年10月2日)

生徒代表挨拶をする鎌上さん



40周年記念絆祭のステージバック

絆祭テーマ「道」をモチーフに、これまでの歩みと未来への創造を意識してステージバックを描きました。全校生徒の「なりたい自分」が足型に書かれています。



開校当時から望湖台と呼ばれていたように、伐採が進むと教室から徐々に諏訪湖が望めるようになりました。



樹木の伐採

開校当時の眺望を取り戻そうと樹木の伐採が行われました。

◎下諏訪図書館6月の休館日は、3・6・13・20・27日です。

令和3年度 下諏訪町公民館・勤労青少年ホーム 講座のご報告

コロナ禍でも楽しめるよう配慮しながら講座を開催しました。参加された皆さんと一緒に学びました。ここでご紹介する他にも、和小物作り、おりがみ、生け花、カリグラフィー、写経、体操、フラダンス、ヨガ、韓国語、子育て支援の講座など数多くの講座を開催しました。

平日昼間の講座

●お花であそぼう わくわくフラワーアレンジメント

作り終えたときの達成感がすごく味わえました



ハロウィンの作品にチャレンジ

●糸かけアート講座



前から興味があったけど、独学ではできなかったのので教えてもらえてよかった

オートに頼らず、感性で撮れるようになった気がします

●一眼レフの初心者講座



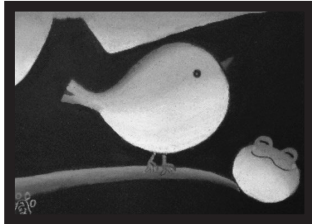
●クラフトバンド講座



秋を探して写真を撮りました。

平日夜間の講座

●チョークアート講座



家でも、チョークアートをやってみたい



心身共にリフレッシュできました

●ボクササイズ講座



●茶道講座 (裏千家)



お茶の心がすてきなあと思いました

●子どもの居場所について考えてみよう



子どもが育つための学校、家庭と地域の居場所の役割を考えました。

手話でコミュニケーションがとれる喜びをかんじました

●手話講座



●ウクレレ講座



新しいことに挑戦できました

夏休み講座

●親子の食育講座

夏休みの
よい体験だったと
思います



輪切り、半月切り、
千切り、乱切り、
きゅうりの様々な切
り方を学びました。

土・日・祝日の講座

●はじめての簡単スモーク講座



こんなにおしく
できるとは、
びっくりです！

いずみ湖を舞台にスモークに挑戦です。

●長野県立歴史館お出かけ歴史館事業 「ペーパークラフトで土器を作ろう」

●シュレーゲルアオガエルの 鳴き声を聞きに行こう！



八島湿原は町の宝だね

八島湿原でアオガエルの鳴き声に
耳を傾けました。



土器を持つとき
すごく重かったです

博物館にも
行きたいです

縄文土器に触れ、
ペーパークラフトを作りました。

●ボードゲーム講座



もうちょっと
やりたいです

●Zoom初級講座



子どもや友人と、Zoomを
活用させていただきます

食に関する講座

●世界の料理と食文化

コロナが落ち着いたら
みんなで食べたいです



世界の料理と食文化シリーズでは、子育てサークルToddlers' Club(トドラーズクラブ)の協力でイギリス(コーニッシュパステイ)、中国(水餃子)、アメリカ(チョコレート菓子、チーズボール)各国の講師と料理を作り交流しました。

●食育応援隊の講座



食育応援隊の方を講師に、懐かしいおやつや学校給食、郷土料理、世界の料理などを作りました。

買い物や自分の健康にあった
レシピ作りもやってみたい



買って食べると手軽だけど
手作りはとても大変で
ありがたさを感じました



地元産の落花生や高野豆腐
を使った折り詰め



草団子、いもようかん、
蒸しまんじゅう

体力づくり教室

たまらない爽快感！
ストレス解消にも効果的！

ボクササイズ

- 日時 6/11、18、7/2(土) 全3回
第1部 10:15~11:00
第2部 11:15~12:00
- 会場 下諏訪健康ステーション屋内フィールド
- 講師 長矢 良子 (スポーツ推進委員)
- 対象 町内在住・在勤の小学4年生以上
- 定員 各部15名
- 参加費 100円 (保険料)



ボクシングの基本動作を利用して行うスポーツエクササイズです。

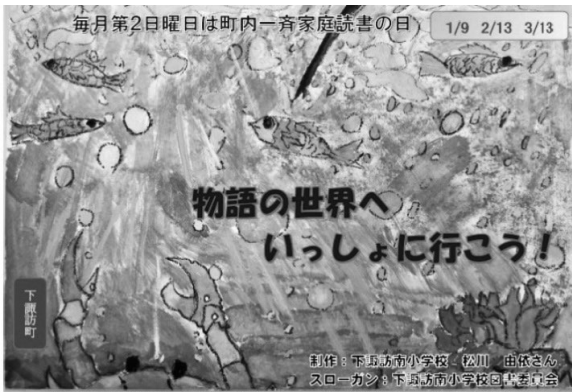
脂肪燃焼と筋肉増加の効果が同時に期待できることから、芸能人の間でも流行りのスポーツです。

◆各教室の申し込み先 下諏訪体育館窓口または、☎27-1455

◆申し込み締め切り 6月4日(土)17:00

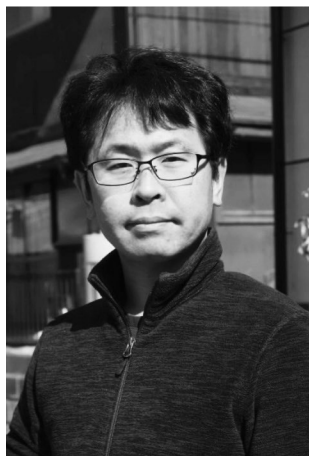
★当日は、運動のできる服装で、上履き、マスク、タオル、飲み物をご持参ください。

★新型コロナウイルス感染拡大の状況により、内容の変更、または中止となる場合があります。



「町内一斉家庭読書の日」は、平成21年度に町PTA連合会の呼びかけで始まりました。平成23年度には、保育園、小中学校、花田養護学校、下諏訪向陽高校、保育園保護者会、PTA連合会、ボランティア団体等で下諏訪町読書推進委員会を組織し、「読書に親しむまちづくり」に取り組んでいます。最初は年1回でしたが、平成24年度より毎月第2日曜日を「町内一斉家庭読書の日」として家庭読書を推進しています。

町民大学①



演題 「小さな隣人 諏訪の昆虫たち」

講師：青木 由親^{あおき よしちか}先生（自然写真家）

日時：6月26日(日) 午後1時30分～午後3時00分

会場：文化センター小ホール

受講料無料 要予約（5月9日～6月23日まで）

昆虫は最も身近な野生動物であり、諏訪にもたくさん生息しています。また、昆虫類は陸上で最も多様に進化した生物でもあります。しかし、その大きさ故かその暮らしぶりや姿をじっくり見る機会はあまり多くないと思います。今回は今まで演者が出会ってきた昆虫たちの写真を交えながら紹介します。

■ 問い合わせ 下諏訪町公民館 ☎28-0002

しもすわ人形劇まつり 2022

日時：7月2日(土) 13:00～17:00

7月3日(日) 10:00～13:00

会場：下諏訪総合文化センター 大・小ホール

入場料：高校生以上 500円

中学生以下 無料

チケットは、6月上旬から下諏訪総合文化センター1階事務室でお求めいただけます。
(定員150人)

※コロナウイルスの感染状況によりイベントの内容は変更・中止になる場合があります。

■ 問い合わせ 下諏訪総合文化センター ☎28-0018

六月のこえ

「春になって花が咲いたらさ……」

病床で父は言った。そのあとの言葉は続かなかつた。父が亡くなってから数年。あのあと、何を言いたかったのだろうか？とずっと考えてきた。

小さいころ、私は父が大好きだった。父は国鉄職員で、夜泊まりの日も多かった。父のいる日はよく父の膝に入って抱っこをしてもらっていた。

父は日本舞踊に打ち込み、名取になってお弟子さんに踊りを教えていた。自分で舞台上に立ち舞踊を披露することもあった。父が部屋で踊りの練習をしている隣で真似して踊ったこともあった。

それが社会人になると、父と会話をすることは少なくなり、外出も旅行も母とばかりしていた。そして、自分自身仕事に追われ、たまに帰省してもゆつくり話すこともなくなった。

その父が肺炎で入院し、春、花の咲く前に旅立った。もつと父と話をすればよかったと今更になって思う。そして「春になって花が咲いたらさ……」父は何をしたかったのだろうか？と考えてきた。父は若いころ、写真を撮ることを趣味にしていた。病に倒れ踊ることもできなくなった父に「写真をとればいいじゃん」と言ったことがあった。おめえ、たまにはいいこというな」と父が言ったことを思い出した。

そうか、父は花が咲いたら花の写真撮りたかったのだ。

六月の第三日曜日は父の日である。今年の父の日はカメラを持って、天国の父と話をしながら花の写真を撮りに行ってみようか。

(溝口 尚美)